

2025 年度 事業計画

2025 年度は、山本会頭の体制下で 4 年目の活動を迎え、新たに掲げた検討事項の具体化や継続している活動を一層深化させる。多様化する社会や会員ニーズを捉え、本学会のポリシーを踏まえながら、有意義な事業活動を展開する。

まず、学術活動の充実化への対応として、JPHCS 誌がインパクトファクターを獲得した一方で、医療薬学誌への投稿・掲載数が従前より減少傾向にあることから、研究初学者向けの臨床研究セミナーの更なる充実化を検討する。また、年会の枠組みの中で委員会が企画する研究活動の促進に繋がるセッションの実施やオンデマンド配信を通じて、研究への参画・実施を促進する啓発活動を行う。さらに、主に薬学生や学会発表の経験が浅い方々を対象に、学会発表が経験できるフレッシュャーズ・カンファレンスの広報を強化し、より多くの演題登録や参加を促す方策を講ずる。

専門薬剤師制度においては、2020 年に新制度として地域薬学ケア専門薬剤師制度がスタートし、他の制度でも連携研修の枠組みを導入するなどの見直しが行われた結果、この 5 年間で全制度を合わせて 340 件を超える連携研修が開始された。今後は、新規認定者や更新者の人数、連携研修への参画状況及び継続性などを総括し、専門薬剤師制度のあり方や活動方針、より効果的な広報活動を模索する。

将来計画に係る検討では、中長期的な視点に立ち、年会や各研修会の運営方法や実施体制の検討を進めるとともに、必要性の高いシステムの整備・構築についても検討を進める。

1. 年会開催

第 35 回日本医療薬学会年会

年会長 矢野 育子（神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

開催日程 2025 年 11 月 22 日（土）～ 24 日（月・祝）（予定）

開催地 神戸国際展示場、同会議場、他

ハイブリッド開催（現地＋オンデマンド）

2. 医療薬学公開シンポジウム開催

第 97 回～第 100 回医療薬学公開シンポジウムを開催予定（4 回）

3. フレッシュャーズ・カンファレンス開催

第 8 回フレッシュャーズ・カンファレンス

実行委員長 西口 工司（京都薬科大学 教授）

開催日程 2025 年 6 月 21 日（土）・22 日（日）

開催地 京都薬科大学（京都府）

4. 医療薬学誌の発行

第 51 巻 1 号～12 号を発行する。（毎月発行）

5. JPHCS 誌の発行

第 11 巻をオープンアクセスジャーナルとして発行する。（随時掲載）

6. 会議開催

- 1 第 17 回定時社員総会 （2025 年 3 月下旬頃に開催予定）
- 2 第 17 回臨時社員総会 （第 35 回日本医療薬学会年会会期中に開催予定）
- 3 理事会 年間 6 回開催予定

7. 各委員会活動

(1) 総務委員会

- 1 働き方改革・感染対策等を念頭にした学会運営・会議等の電子化等を引き続き推進する。
- 2 規定等の整備と管理を行い、定款見直しの必要性を検討する。
- 3 事務局体制の整備・強化を行う。
- 4 年会運営に関する必要な事項を調整・整備する（小委員会）。
- 5 年会長候補者を決定する（小委員会）。
- 6 その他、会の円滑な運営に必要な事項を検討する。

(2) 財務委員会

- 1 資産を適切に管理する。
- 2 予算の執行状況を定期的に確認する。
- 3 歳出入の適切性を監視する。
- 4 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会及び学会事務局との連携を円滑化する。
- 5 年会会計を適切に管理・監督する。
- 6 2024 年度決算報告書を作成する。
- 7 公益社団法人への移行可能性も考慮し、2026 年度予算案を編成する。
- 8 学会運営の活動状況に対応した財務の見直しを提言する。

(3) 企画・シンポジウム委員会

- 1 2025 年度に開催される公開シンポジウム運営への助言、支援を行う。
- 2 2026 年度以降の公開シンポジウムの開催のあり方を協議する。

(4) フレッシュヤーズ活性化委員会

- 1 第 8 回フレッシュヤーズ・カンファランスを開催し、若手・新人の発表の場を提供するとともに、優秀な若手・新人を顕彰する。
- 2 2026 年度以降のフレッシュヤーズ・カンファランスの開催のあり方を協議する。
- 3 医療薬学教育委員会と連携し、若手・新人の研究アクティビティーの向上策を検討する。

(5) 広報・出版委員会

- 1 広報用リーフレットの作成
 - ① 2025 年度版のリーフレットを作成し薬学生に配布する。
- 2 ホームページの更新及び改訂を継続する。
 - ① リニューアル後のホームページに必要な原稿を依頼する。
- 3 一斉配信メールなど、会員への広報活動の促進策を検討する。
- 4 出版小委員会が担う「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」の改訂に係る出版活動を支援する。
 - ① 書籍の構成を確定する。
 - ② 項目ごとに著者を選定し、原稿作成を依頼する。
 - ③ 作成された原稿を、出版小委員会ならびに本委員会で読み合わせる。

(6) 会員委員会

- 1 正会員及び学生会員数の増加策を検討する。特に薬局薬剤師、薬学生や大学院生、製薬企業所属者、行政関係者の会員増加策に関する検討を行う。
- 2 会員管理システムの利便性をより高めるための方策を検討する。
- 3 会員の要望等を把握するために、定点観測可能なアンケート調査を企画、実施する。
- 4 医療薬学教育委員会、フレッシュヤーズ活性化委員会と協力して、学生会員増加策を検討する

(7) 医療薬学編集委員会

- 1 投稿論文の審査・採否の決定・掲載とより迅速で適切な体制整備を検討する。
- 2 医療薬学誌第 51 巻を発行する。
- 3 投稿論文ならびに掲載論文の増加策の検討と学術誌としての質の維持・向上を図る。
- 4 医療薬学誌の紙媒体としての特性を踏まえたコンテンツの再編と、学術誌としての機

能に加えて、会員からの情報提供・共有を図る媒体として活用することを検討する。

(8) JPHCS 編集委員会

- 1 JPHCS 誌の論文投稿を随時受付け、審査し、受理された論文を第 11 巻に掲載する。
- 2 JPHCS 誌の認知度向上及び投稿数増加に向けた取り組みを検討する。
 - ① 年会やセミナーでの委員会企画の開催
 - ② 査読者表彰制度の導入
 - ③ 投稿数増加に向けた資材作成
 - ④ 他学会との連携の可能性
- 3 経済性且つ利便性などを考慮した出版形態を継続的に検討する。

(9) 専門薬剤師制度運営委員会

- 1 各専門薬剤師制度を統括し、制度の整備及び運営を管理・監督する。
- 2 各専門薬剤師制度の諸規程の新規策定及び見直しを検討する。
- 3 各専門薬剤師制度の連携研修の運営管理を行う。
- 4 各専門薬剤師制度の統計データを管理し、認定者の動向を把握する。
- 5 下部組織として、次の小委員会及びワーキンググループを置き、その運営を管理・監督する。
 - ① 薬物療法集中講義企画・運営小委員会
 - ・ 薬物療法集中講義を企画・運営する。
 - ② 専門薬剤師認定試験小委員会
 - ・ 専門薬剤師認定試験の試験問題を作成する。
 - ・ 専門薬剤師認定試験の実施と採点を行い、合否判定結果を上申する。
 - ③ 専門薬剤師制度支援システム検討ワーキンググループ
 - ・ 認定申請及び審査の円滑な実施に向けた申請・審査システムを構築する。
 - ・ 研修施設（連携研修を含む）を管理するシステムを構築する。

(10) 医療薬学専門薬剤師認定委員会

- 1 医療薬学専門薬剤師、医療薬学指導薬剤師の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 医療薬学専門薬剤師研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 3 医療薬学専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 4 下部組織となる医療薬学専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
 - ① 医療薬学専門薬剤師研修ガイドライン及びコアカリキュラムの内容について検討し、必要があれば改訂する。

- 5 医療薬学専門薬剤師、指導薬剤師を国際的に対応可能なものにするため、国外における医療薬学専門薬剤師、指導薬剤師の制定状況、認定要件などを調査する。

上記の事項を実行するため、下記の項目等について継続的に議論する。

- ① 医療薬学専門薬剤師に期待される能力・社会貢献
- ② 認定者総数、新規認定者数、資格喪失者数、年齢構成、男女比の把握結果を元に養成計画を随時見直す。
- ③ 認定試験制度の運用

(11) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

- 1 薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師、研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 薬物療法専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 3 薬物療法専門薬剤師の申請に係る症例サマリのまとめ方ワークショップ及び薬物療法専門薬剤師アドバンスト研修会を実施する。(年1回、他の学会との共催、本学会年会でのシンポジウムの企画を含む)
- 4 下部組織となる薬物療法専門薬剤師研修小委員会の運営を管理・監督する。
 - ① 薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン及びコアカリキュラムの内容について検討し、必要があれば改訂する。
 - ② 単位認定の対象となるセミナーの申請を受け付け、審査・認定する。

(12) がん専門薬剤師認定委員会

- 1 がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 がん専門薬剤師の養成及び有資格者を対象とした研修会を立案し実施する。
 - ① がん専門薬剤師集中教育講座を日病薬と共催で実施する。(年1回予定)
 - ② がん専門薬剤師アドバンスト研修会を実施する。
 - ③ がん専門薬剤師全体会議を実施する。
 - ④ がん専門薬剤師の申請に係る症例サマリのまとめ方セミナーを実施する。(年3回、地方での開催、他の学会との共催、本学会年会でのシンポジウムの企画を含む)
- 3 がん専門薬剤師認定試験の問題を作成し試験を実施する。
- 4 がん領域の他学会とのコラボレーション企画を検討して実施する。
- 5 がん専門薬剤師の研修ガイドライン及びコアカリキュラムを改訂する。
- 6 単位認定の対象となるセミナーの申請を受け付け、審査・認定する。

(13) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

- 1 過渡的認定を含む地域薬学ケア専門薬剤師、研修施設の新規及び更新に係る認定審査を実施する。
- 2 地域薬学ケア専門薬剤師認定制度に関する問題の協議を行い、方策を実施する。
- 3 地域薬学ケア専門薬剤師の育成（症例サマリのまとめ方）と全国に向けた情報発信を行う。
- 4 下部組織となる地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会、地域薬学ケア専門薬剤師症例審査検討ワーキンググループの運営を管理・監督する。
 - ① 症例サマリのまとめ方に係るシンポジウム等を企画し開催する。
 - ② 地域薬学ケア専門薬剤師研修ガイドライン及びコアカリキュラムの内容について検討し、必要があれば改訂する。
 - ③ 受講単位の対象となるセミナーを受け付け審査・認定する。

(14) 功績賞・振興賞選考委員会

- 1 功績賞選考規程に基づき、功績賞受賞候補者を選考する。
- 2 振興賞選考規程に基づき、振興賞受賞候補者を選考する。

(15) 学術関連賞選考委員会

- 1 学術に関連する賞として、日本医療薬学会賞、学術賞、奨励賞及び Postdoctoral Award の各受賞候補者を募集し、各賞の選考規程に基づき各受賞候補者を選考する。
- 2 論文賞選考規程に基づき、医療薬学誌第 50 巻及び JPHCS 誌第 10 巻の各誌に掲載された論文より、医療薬学誌論文賞及び JPHCS 誌論文賞受賞候補論文を選考する。

(16) 医療薬学教育委員会

- 1 フレッシュヤーズ・カンファランスにおいて、医療薬学教育委員会企画を実施する。
- 2 上記企画の満足度調査を行う。
- 3 学生に医療薬学研究や医療薬学会の魅力を伝える素材作成を検討する。
- 4 年会での委員会企画も検討する

(17) 臨床研究推進委員会

2025 年 4 月に臨床研究推進セミナーを例年通り開催する予定である。

(18) 国際交流委員会

- 1 年会に関連して、年会実行委員会と連携して以下の活動を行う。

- ① 国際シンポジウムを企画し、演者の選定、招聘、座長の選定などを行い、当日のシンポジウムを運営する。
- ② **International Session**（英語による一般演題の口頭及びポスター発表のセッション）を企画運営する。
- 2 海外研修等助成員の募集、候補者の選考など、海外研修等助成に関する事業を運営する。
- 3 国際シンポジウムへの演者の推薦など、会員の国際活動の活性化を図る。
- 4 広報・出版委員会及び年会運営実行小委員会と協力して、英文ホームページの更新を検討する。

(19) 利益相反マネジメント委員会

- 1 利益相反（COI: Conflict of interest）の申告対象者の利益相反状態を確認する。「一般社団法人日本医療薬学会 利益相反マネジメント規程」の内容を再確認し、必要に応じて適正化を図る。特に、COI 自己申告対象者、運用方法（申告依頼、提出管理）について見直し可否を検討する。
- 2 申告書類を保管する。事務作業の効率化を検討する。

(20) 医療薬学学術委員会

- 1 学術活動の活性化に繋がる研究テーマを精査・選定し、研究課題を公募する。
- 2 応募案件の中で学術小委員会として支援に資する研究課題を選考する。
- 3 2024 年度に発足した学術小委員会ならびに継続する小委員会を支援・統括するとともに、COVID-19 関連薬物相互作用マネジメント手引きのメンテナンスを担当する小委員会活動を支援する。
- 4 下部組織の医療薬学学術小委員会で、以下の事項を実施する。
 - ① 研究計画に沿って研究を実施し、年度毎に研究報告書を作成する。
 - ② 研究最終年度には、年度毎の報告に加えて、研究成果最終報告書を提出する。
 - ③ 本学会年会において、研究成果に関するシンポジウムを企画・開催する。
- 5 日本学術会議「未来の学術振興構想」として本学会より提案した「患者主体的医療体制の実現とそれを支えるヘルスリテラシー教育体制を構築」の実現を目指した委員会活動を開始する。

(21) 将来計画検討委員会

本学会の将来構想に関わる事項として、事業の継続性を担保し、本学会の持続的な発展に資する検討を進める。

- 1 本学会が目指す規模や他団体との関係性を議論する。
- 2 WEB 開催を活用した年会や各研修会の運営方法や実施体制の検討を進める。
- 3 専門薬剤師制度のあり方、専門薬剤師の育成から認定資格の継続などのキャリアプランに係る検討を進める。
- 4 代議員選挙制度の改正に係る検討を進める。
- 5 公益社団法人への移行に係る検討を進める。

(22) 製薬企業連携検討委員会

製薬企業・団体との連携を進め、本学会の活動領域を拡張するとともに、製薬領域の活動や考えを医療現場や大学で活動する会員に広めることを検討する。

(23) 情報システム整備委員会

将来計画検討委員会、広報・出版委員会、会員委員会などと連携し、利便性且つ持続的に活用できる情報システムの枠組みや構築を検討する。

(24) 医療安全対策委員会

医療事故調査支援制度に係る医療事故調査・支援センターの協力学会として、調査依頼案件への協力活動を進める。

(25) 多様性推進委員会

本学会としての組織運営、会員による学術活動や認定資格の取得・維持のための多様性へのあり方を検討し、推進活動を模索する。

(26) ハラスメント防止委員会

学会活動全般におけるハラスメント防止のための啓発活動を実施する。

(27) 薬系学会連合連携委員会

日本薬系学会連合の組織運営及び活動への協力を進める。

(28) その他

- 1 日本学術会議に参画し、活動に協力する。
- 2 他学会や学術・職能団体等と連携・協力し、本学会の活動を進める。